



東証スタンダード:3131

2026年3月期 第3四半期決算説明資料

2026年2月9日

1. 定性情報サマリ(26年3月期 Q3)

■販売面 → なお減少基調なるも、Q2までの水準に対し、下げ幅縮小し持ち直しの動きあり。

項目	要因	増減%
分野別売上高	半導体製品 従来型メモリー関連商材の供給制約と、当初より想定している一部の車載向けビジネスの商流移管、そして前年のファウンドリビジネスの反動減。	▲14.5%
	ディスプレイ TVやPC向け液晶ディスプレイモジュールの需要増加、有機ELビジネスの進捗、完成品としての液晶ディスプレイの販路拡大が寄与。	+9.8%
	システム製品 検査等装置及びEMSビジネスが堅調に推移したことと、AIサーバのメーカーインナップ強化による小規模案件獲得。	+21.4%
	バッテリー＆電力機器 主力の家庭用ESS向けビジネスが減少。	▲19.0%
売 上 高	ディスプレイ分野とシステム製品分野の増収が全体を下支えした一方、半導体製品分野とバッテリー＆電力機器分野の減収によるもの。	▲6.4%
売上総利益	ディスプレイ分野及びシステム製品分野の増収が下支えした一方、半導体製品分野の減収に加え、ドル建取引において上期の円高進行による原価率上昇が押し下げ要因となる。	▲6.8%

■利益面 → 費用や営業外要因は概ね抑制される一方、売上総利益の減少が響き、利益面は想定範囲内の減益。

項目	要因	増減%
営業利益	販売費及び一般管理費は抑制するも、売上総利益の減益が要因となる。	▲13.6%
経常利益	・営業利益の減益の影響が主な減益要因。	▲26.7%
親会社株主に帰属する四半期純損益	・為替差損を計上するも、支払利息が大幅に減少したことで営業外損益内での影響は軽微。	▲28.4%

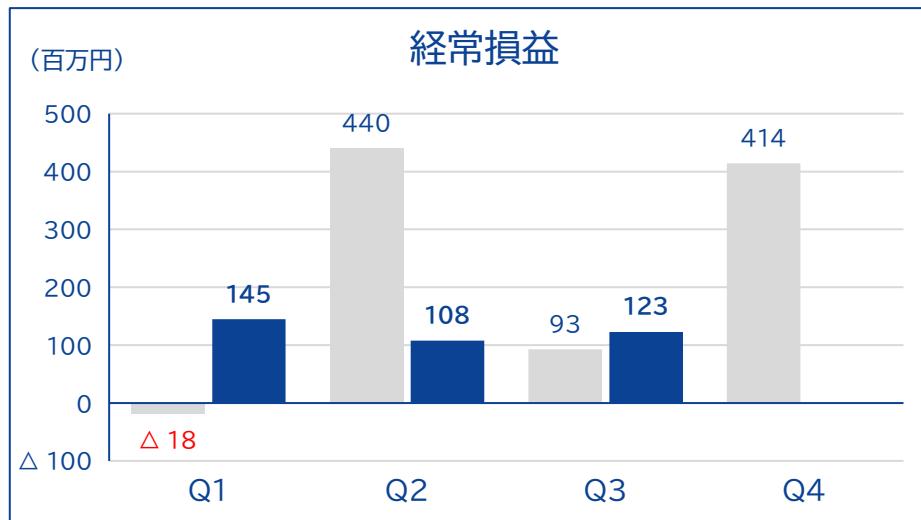
2. 業績サマリ(26年3月期 Q3)

金額単位:百万円	前年度Q3実績 (25年3月期)	当年度Q3実績 (26年3月期)	増減額	増減率
売上高	32,602	30,448	▲2,153	▲6.6%
営業利益	817	706	▲111	▲13.6%
経常利益	515	377	▲137	▲26.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益	353	252	▲100	▲28.4%



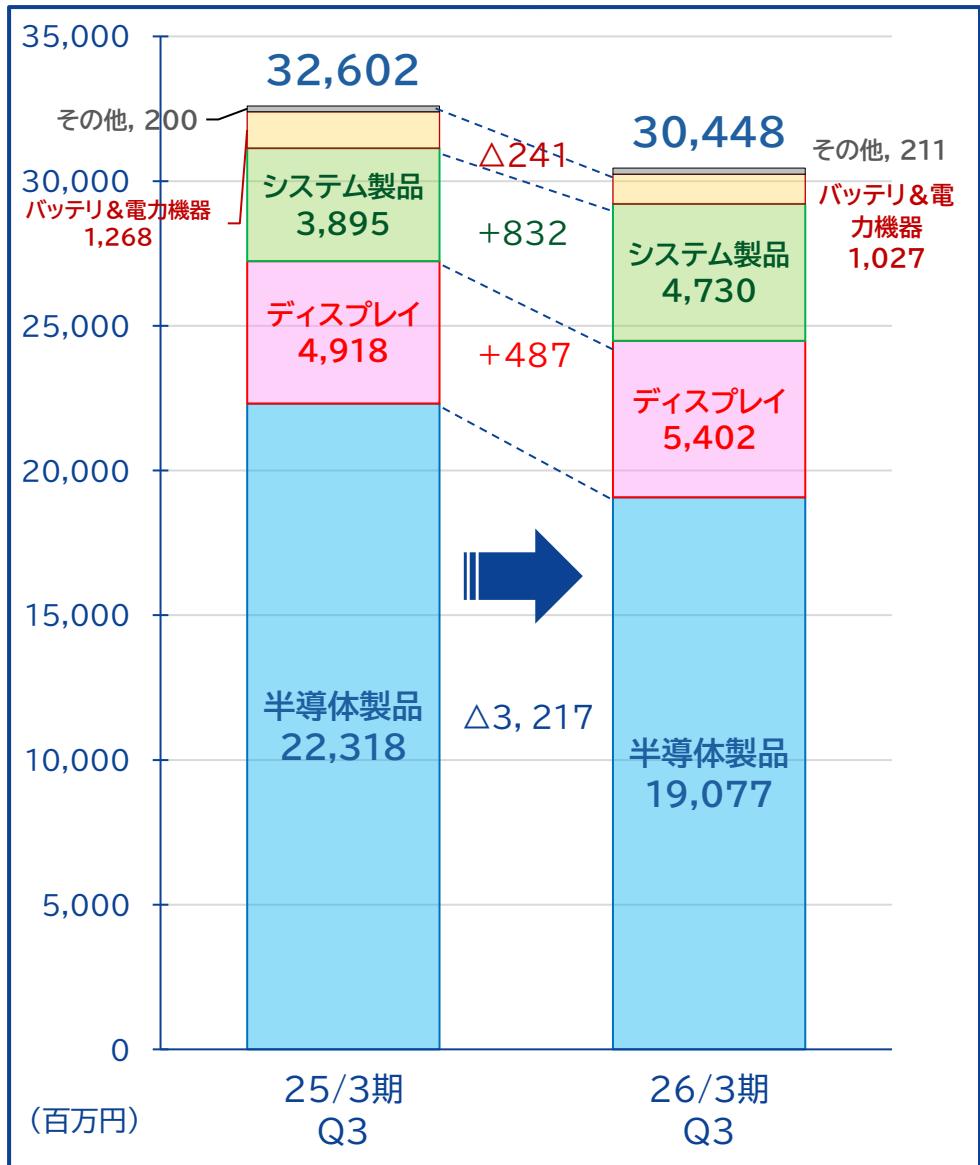
3. 26年3月期 四半期別業績(前期対比)

主要指標の下げ止まりが進み、利益面で持ち直し。



凡例:  25/3期  26/3期 ※26/3期はQ3まで実績を記載。

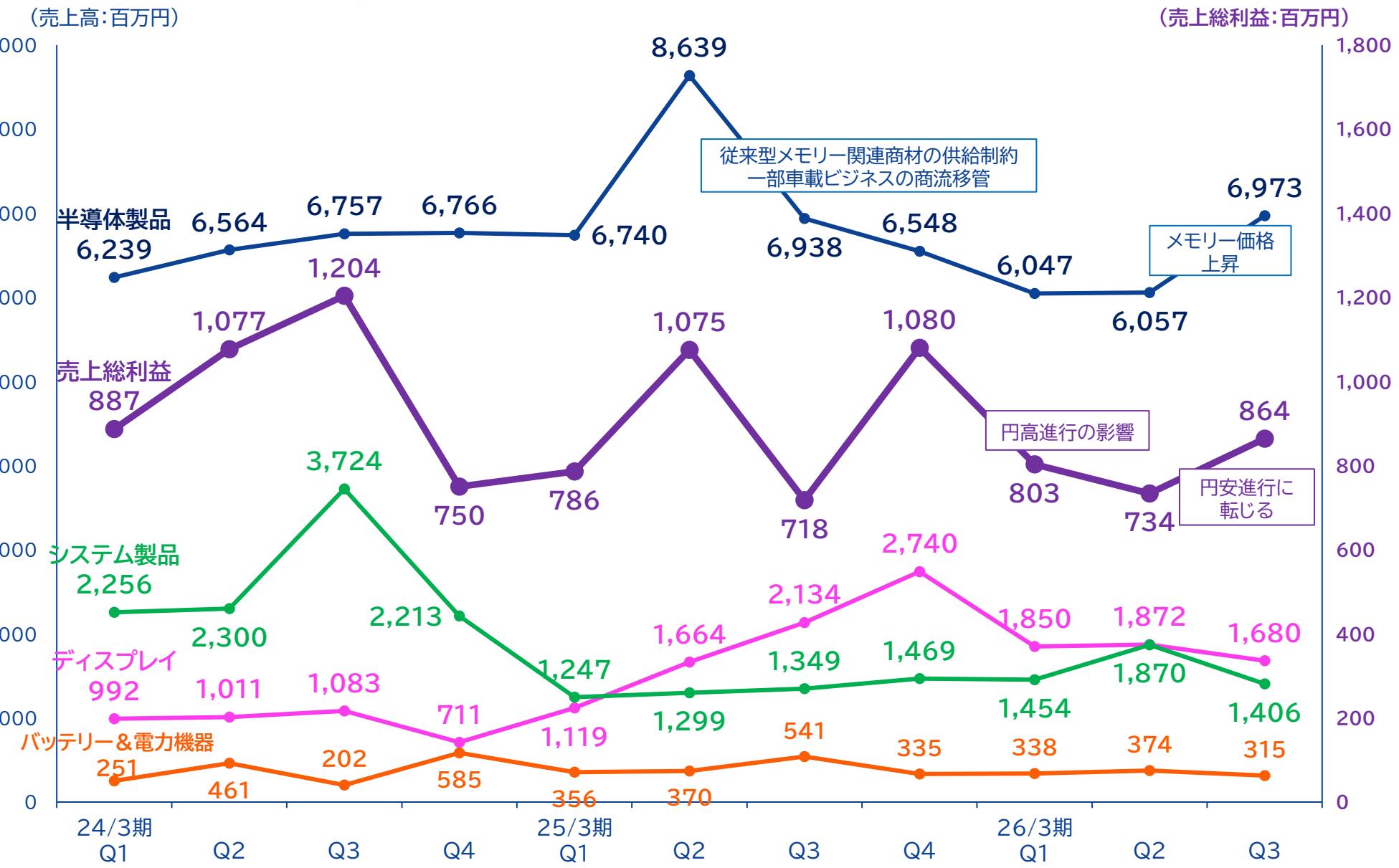
4. 販売状況(分野別売上高:前中間期対比)



主要品目	増減%	販売状況
半導体製品	▲14.5%	従来型メモリー関連商材の供給制約と、当初より想定している一部の車載向けビジネスの商流移管、そして前年のファンドリビジネスの反動減。
ディスプレイ	+9.8%	TVやPC向け液晶ディスプレイモジュールの需要増加、有機ELビジネスの進捗、完成品としての液晶ディスプレイの販路拡大が寄与。
システム製品	+21.4%	検査等装置及びEMSビジネスが堅調に推移したことと、AIサーバのメーカーインナップ強化による小規模案件獲得。
バッテリー&電力機器	▲19.0%	主力の家庭用ESS向けビジネスが減少。

5. 販売状況(主要分野別売上高/総利益推移)

SHINDEN HIGHTEX CORPORATION

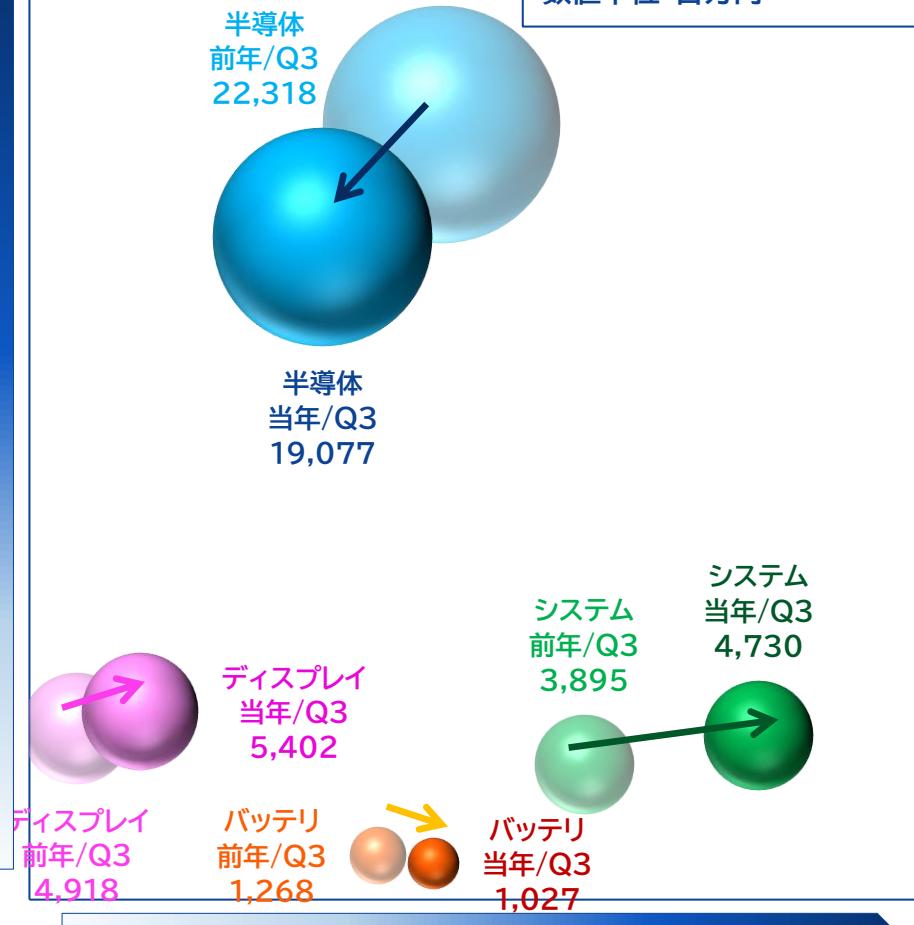


6. 主要分野別パフォーマンスマップ

増

売上高

減
低



収益性

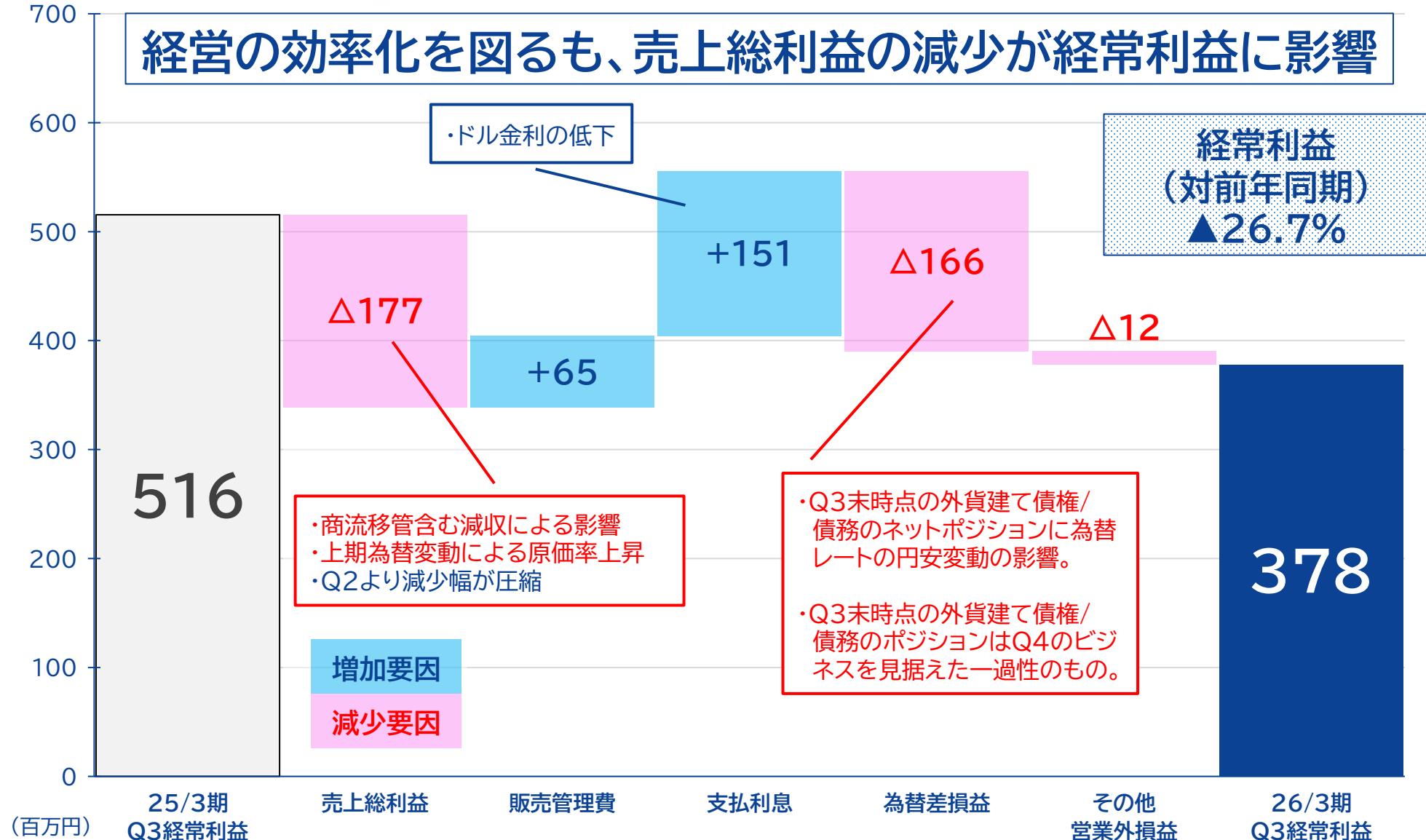
分野	売上高と収益性の評価
半導体製品	従来型メモリー関連商材の供給制約と一部ビジネスの商流移管により売上規模が縮小。 上期の為替変動による原価率の上昇により収益性はやや悪化。
ディスプレイ	ビジネス自体増加基調にあり売上規模は拡大。 有機ELや完成品としてのディスプレイの拡販により収益性は改善。
システム製品	AIサーバービジネスの増加に加え、検査等装置及びEMSビジネスの堅調な推移で売上規模及び収益性が向上している。
バッテリー & 電力機器	主力の家庭用蓄電システムが減少し、売上規模は縮小。 新規バッテリービジネスの積重ねで収益性は改善。

「2026年3月期の重点施策」を着実に実行。
(2025年5月12日公表)※次ページご参照

7. 26年3月期 重点施策(5月12日公表資料より抜粋)

分野	課題or機会	重点施策
半導体製品	車載向け商流移管による減少	商流獲得に向けた活動強化
	主要仕入先製品群と国内顧客需要のミスマッチ	従来型メモリ関連商材の代替品を拡販
		HBMの国内需要リサーチ(長期的視点)
ディスプレイ	有機EL案件の引合い増加	既存顧客のポテンシャルを活用した拡販
システム製品	AIサーバ機器の引合い増えるも、受注が不安定	サーバー機器のメーカーポートフォリオ強化し受注確度を高める 案件の精査、市場調査の強化
	DX化の進展	通信モジュールの更なるデザイン・イン
	自動運転分野への参入	農業分野において販売ネットワークを構築
バッテリ&電力機器	蓄電需要の高まり	家庭用蓄電システムの拡販
		系統用蓄電ビジネスへの参入準備
その他	環境負荷低減に資するビジネスへの関心	製造設備向け加熱排気パイプの拡販(省エネ化)
		多層構造で反射と放射を両立しゼロエネルギーによる冷却を実現した光学フィルム(スペースクール)の拡販

8. 経常利益の変動要因チャート(Q3)



9. 通期修正予想進捗状況(Q3)

Q3の業績は公表見通しの範囲内で推移。Q3の為替差損は一過性の影響で、Q4は比較的大きいビジネスに加え、円安・メモリー価格上昇が追い風になる見込み。一方、国内外の景気および需要動向には引き続き不透明感が残ることから、**修正後通期業績予想を維持。**

金額単位:百万円	通期見通し(修正) (26年3月期)	Q3実績 (26年3月期)	修正見通し 進捗率
売上高	43,800	30,448	69.5%
営業利益	1,150	706	61.5%
経常利益	800	377	47.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	550	252	45.9%



10. トピックス



blueqat 



SHINDEN HIGHTEX CORPORATION



【ゲームチェンジャー】となる半導体量子コンピューター 半導体量子コンピューターによる新たな価値創出へ

「blueqat社との共創で実装力を高め、市場展開を加速。」

当社は、2025年12月26日に半導体量子コンピューターの意義と実装ロードマップを、blueqat社との対談形式で動画公開しました。

本動画では、量子技術の活用例や、当社がどのような役割を担うのかを分かりやすくお伝えしています。

また、当社はblueqat社との提携を基盤に、GPUサーバ販売や量子コンピューティングサービスを起点とした“ハード × ソフト × クラウド”的提供体制を強化し、市場の変化に応じたソリューション展開を可能にしています。

当社は、サプライチェーン最適化や顧客提案力に加え、創業来培ってきた知見を結集し、実証から事業化までを一貫して支援し、量子コンピューティングの産業応用に向け、確かなパートナーとして伴走してまいります。

参考動画：

<https://www.youtube.com/watch?v=xcDHIwoMBFo>

本資料お取扱上のご注意

本資料は、シンデン・ハイテックス株式会社(以下、当社)の事業及び業界動向に加えて、当社による現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なるリスクや不確実性がつきまとっています。

すでに知られたもしくは知らないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。

本資料における将来の展望に関する表明は、2026年2月9日現在において、利用可能な情報に基づいて、当社によりなされたものであり、将来の展望に対する表明、予想に関しては、必ずしも実現することをお約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありますことをご承知ください。

本資料に関するお問い合わせ先

シンデン・ハイテックス株式会社
経営企画室

フリーコール: 0800-5000-345